

蓄積量は、RC造マンション、鉄筋プレハブ住宅の4倍



授業は毎週 金・土曜  
お気軽に見学を！  
12月30日・31日を除く

◆ ◆ ◆  
低炭素・脱炭素化のため  
に何ができるのか。国家に  
も企業にも個人にも求めら  
れています。持続可能な地  
球環境に貢献する観点から  
あえて木の家を選択する人  
も増えています。

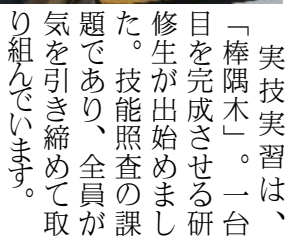
東京建築力レッジは、森  
林大国である日本の国土が  
育んだ木造建築の技と知恵  
を継承・発展させることを  
教育の根幹としています。  
時代の要請にしっかりと応  
えています。

目されています。森林が炭素の貯蔵庫となることはよく知られています。が、乾燥した木材も炭素を貯蔵しま

---

位の排出国の米国で温暖化対策に消極的な大統領が選ばれるなど、予断を許さない情勢ですが、圧倒的な世論は、同国の離脱を許さないでしょう。

## 2年生の授業から



この実技実習の授業の前には、班長会議を行います。土台班、柱班、丸太班、二階梁班、小屋班のそれぞれが作業の進捗と課題を報告しあい、この日の作業の流れを確認します。写真は11月19日の班長会議。宮大工の事業所で働くK君が司会を務め、プロっぽく会議を進めています。

伝統構法の要素も取り入れた木造軸組み構法による2階建ての家を手刻の大きな柱です。

# 1年生の授業から

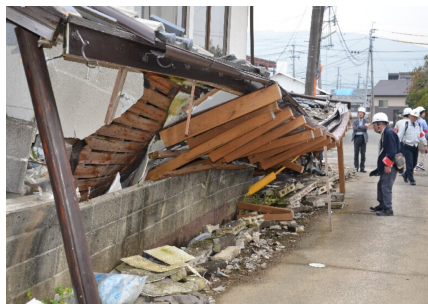


講師・指導員研修会 11月20日・21日

## 熊本被災地を視察

本校は11月20、21日、講師・指導員研修会を熊本県内で行いました。講師・指導員18人、理事3人、事務局3人の24人が参加しました。今年4月14日、16日に最大震度7の大地震に襲われた熊本の木造建築の被災状況(川尻地区、益城町)や益城テクノ仮設団地における新しい建築の提案などを確認すると共に、共通認識化が必要な教育実践の諸課題についての意見交換も行いました。

カレッジの研修生派遣事業などから寄せられた募金は3等分し、熊本城修復支援募金、熊本県建築労働組合、益城町役場に手渡しました。川尻地区では、木造の伝統構法の良さを発信し続けている「すまい塾・古川設計室」古川保さんにも受けました。写真は益城町(11月21日撮影)



東大寺大仏殿の迫力に圧倒されるカレッジ生たち。  
木造建築の生命力・可能性を実地で学んだ。

## 古建築をたっぷり集中学習 「奈良宿泊研修」

第20期生(2年生)

の奈良研修は、木造古建築が集中する奈良で行う特別授業です。11月10日(木)の早朝から12日(土)午後まで実施しました。

研修先は、東大寺(三月堂、二月堂、大仏殿、転害門、正倉院、南大門)、唐招提寺(金堂、講堂)、薬師寺、今井町の街並み、當麻寺、法隆寺(中門、五重塔、金堂、大講堂)、瀧

## 修復工事現場も

今期の研修生にとって一番幸いなことは、連日、国宝・重要文化財クラスの建築物

川神社建築の会長講演、元興寺、興福寺(中金堂、国宝館、東金堂、五重塔)、平城宮跡(資料館、第一次大極殿、東院庭園、朱雀門)。古建築の宝庫を一気に巡りました。現地でカレッジの先生方から木造建築の伝統技術・技能の詳細について講義も受けました。

## 学習レポート

の保存修理・再建の工事現場をプロフェッショナルの丁寧な解説付きで実地学習できたことでした。古都奈良で日本の建築文化と技術・技能の継承の最前線で仕事をしている技術・技能者の姿は良い刺激になりました。

一人ひとりの問題意識・気づきを起点に、研修生全員が必須課題、学習レポート(A4用紙7枚以上)をまとめ上げるまで奈良研修は続きます。



多くのカレッジ生に強い印象を与えた橿原市今井町の町並み。修理すれば長く使い続けられる木造建築の魅力を味わった。

仲間と一緒に成長できる！チャンスを生かそう！！

職業能力開発短期大学校 東京建築カレッジ  
第22期生(来年4月入学)第4回募集

◇学校説明会 1月25日(水)

①午後2時から ②午後7時から

◇応募締切 2月2日(木)

◇入学選考日 2月8日(水)

午前10時から午後3時

今期最終募集！



軸組み実習授業の合間に記念撮影。左端は赤井立矢指導員。

授業見学は大歓迎！授業日は毎週金曜・土曜